

焼香の列、足形の目印を設置

通夜の料理は持ち帰り推奨



かわさき 河崎 かずよし 和義 理事長

県葬祭業協同組合

葬儀場では参列者が焼香で列に並ぶ時、ソーシャル・ディスタンス（社会的距離）を保つために足形や線で目印を示しているほか、会場の座席を6割程度減らして密接、密集を防いでいる。ドアや窓を開けた換気、階段の手すり、エレベーターのボタンなどの小まめな消毒も徹底している。

通夜などで提供する料理は皿を避け、巻きすしなどの折り

クリル板を設置したり、やむを得ず欠席した親族に葬儀の様子を録画して提供したりするサービスも広がり始めている。

従業員向けには、防護服や手袋、ゴーグルなどを準備し、着脱の際の注意点や消毒の手順を動画などで周知。感染者がなくなった場合でも、適切に対応できる準備が整っている。

各業界に聞く



詰めに切り替えた。葬儀場での食事から飛沫が飛びのを防止する観点もあり、最近はおおむね持ち帰ってもらっている。
火葬場へ移動する際も密接、密集を防ぐため、マイクロバスなどに乗車してもらうのは、10人未満の親族に限るケースが多い。参列者が全員で10人程度の家族葬も急速に増加しており、葬儀場の設備を小規模用に切り替える動きも出ている。
また、会場内の受付にはア



式場の座席間隔を広くする



焼香の際 2㍍の距離保つ



通夜の料理を持ち帰りに